

令和 7 年（2025 年）の新潟焼山の火山活動

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025 年の発表履歴

2025 年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）
-------------	-----------------------------

○ 2025 年の活動概況

・表面現象の状況（図 1～5、図 6－①②、図 7－①②、図 9）

噴煙活動は低調に経過しました。山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 100m 以下で経過しました。

4 月 17 日に新潟県消防防災航空隊の協力により、また、10 月 17 日に陸上自衛隊第 12 旅団の協力により、上空からの観測を実施しました。前回（2024 年 8 月）の観測に引き続き、東側噴気孔群の B 噴気孔で白色の噴気が認められ、4 月の観測では、北北東側噴気孔群の C 噴気孔でも白色のごく弱い噴気が認められました。その他の噴気孔からの噴気は認められませんでした。また、北東斜面の B 噴気孔付近では、前回の観測に引き続き高温領域が認められましたが、その他の場所では日射の影響を超えるような目立った高温領域は認められませんでした。

・地震や微動の発生の状況（図 6－③④⑤、図 7－③④、図 8、図 10）

新潟焼山周辺の地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 6－⑥⑦、図 11）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

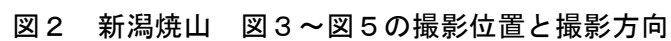
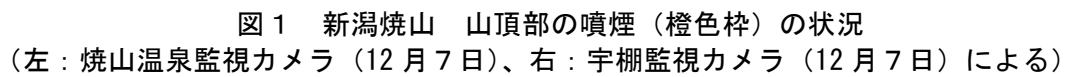
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。



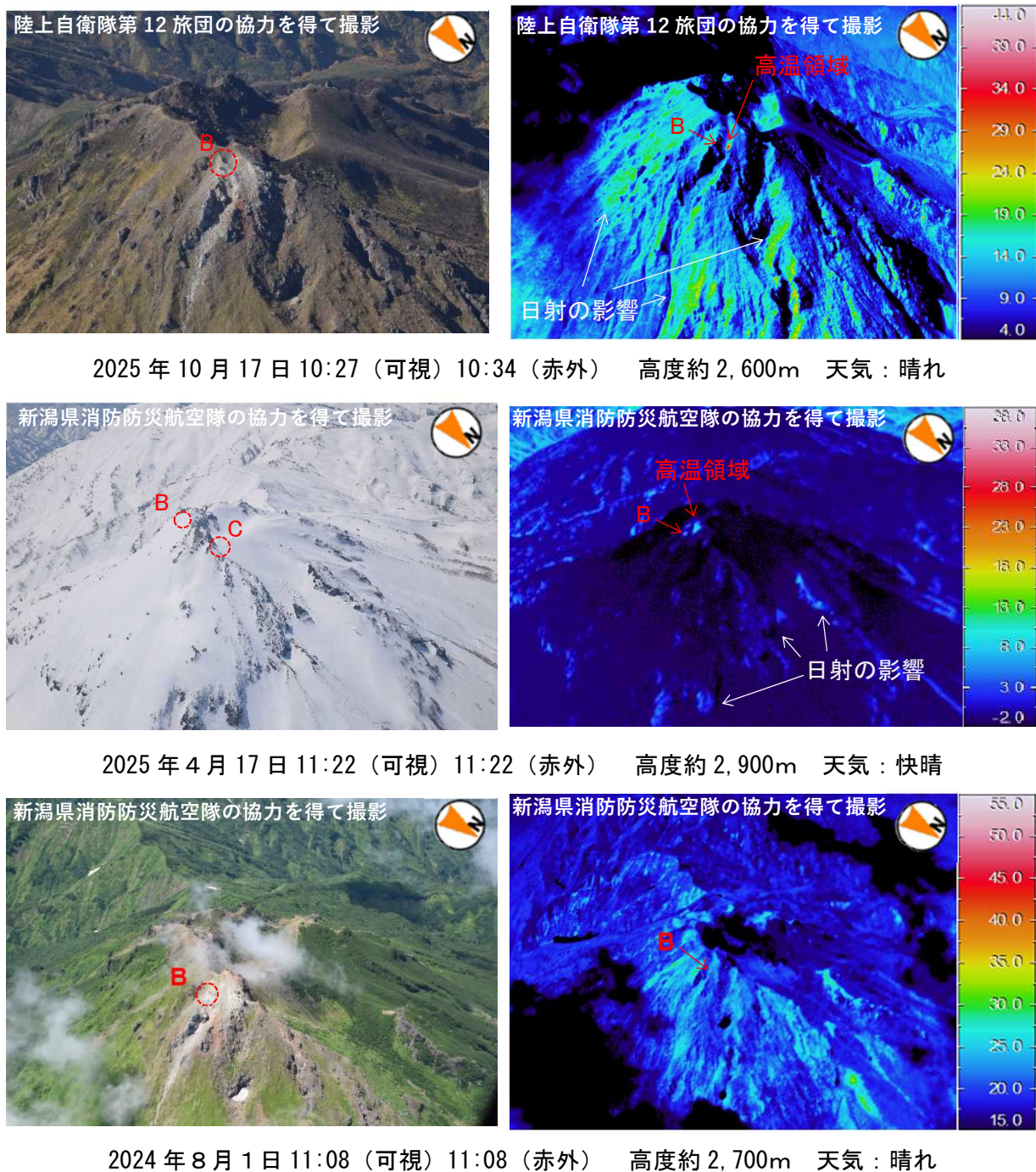


図3 新潟焼山 北東斜面の地熱域の推移

- ・2024年8月の観測に引き続き、2025年4月及び10月の観測においてもB噴気孔付近では高温領域が認められました。



2025年10月17日10時37分撮影



2025年4月17日11時20分撮影

図4－1 新潟焼山 東斜面（東側噴気孔群）の状況

- ・2025年4月及び10月の観測では、東側噴気孔群のB噴気孔で白色の噴気が認められました。



2025年10月17日10時24分撮影



2024年8月1日11時05分撮影

図4－2 新潟焼山 北西斜面（北西側噴気孔群）の状況

- ・2024年8月の観測と比較して、北西斜面（北西側噴気孔群）の状況に特段の変化はみられませんでした。

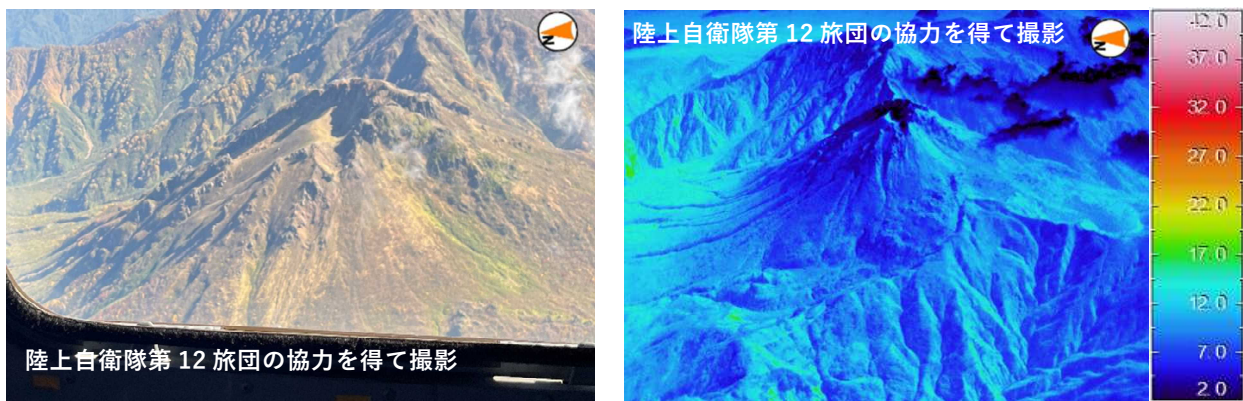
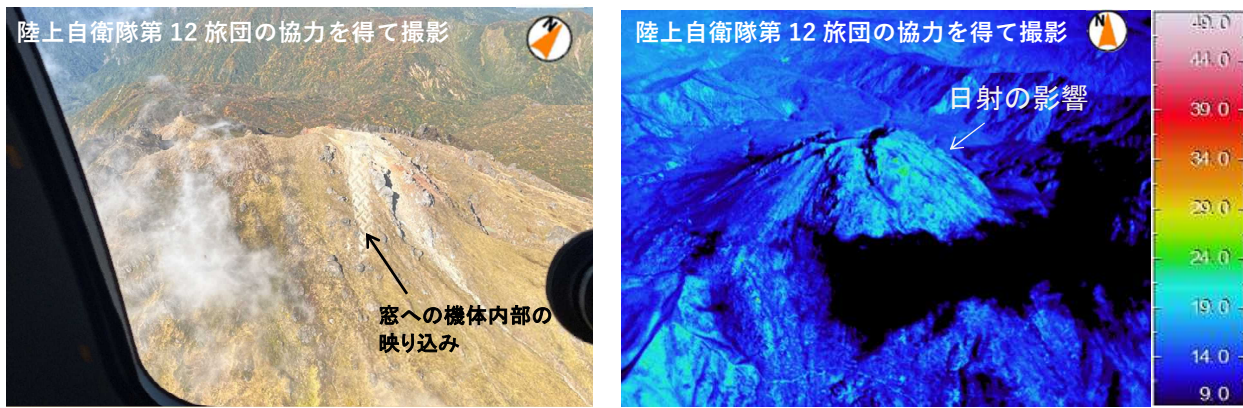
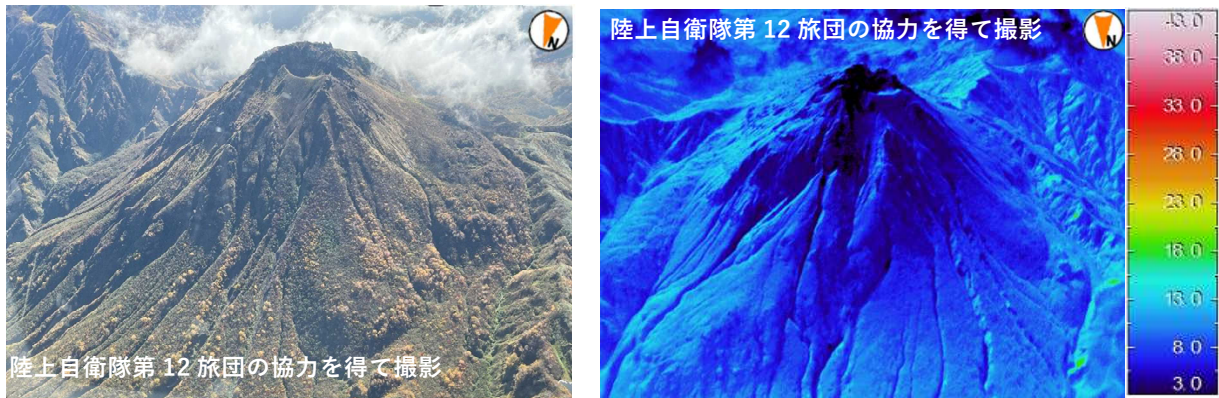
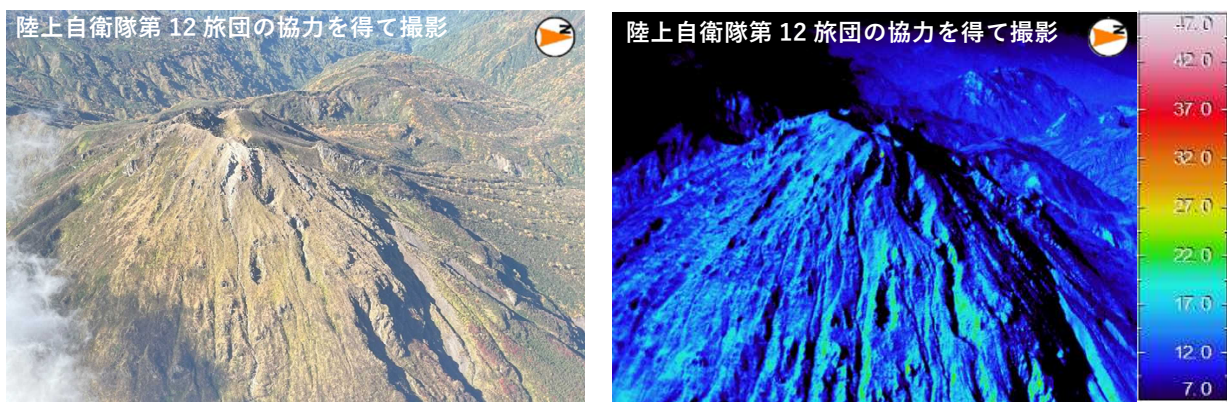


図5-1 新潟焼山 可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布

- ・南及び西斜面では、日射の影響を超えるような目立った高温領域は認められませんでした。



③ 北斜面 2025年10月17日 10:30（可視）10:20（赤外）



④ 東斜面 2025年10月17日 10:27（可視）10:41（赤外）

図5-2 新潟焼山 可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布

- ・北及び東斜面では、B噴気孔以外の場所で日射の影響を超えるような目立った高温領域は認められませんでした。

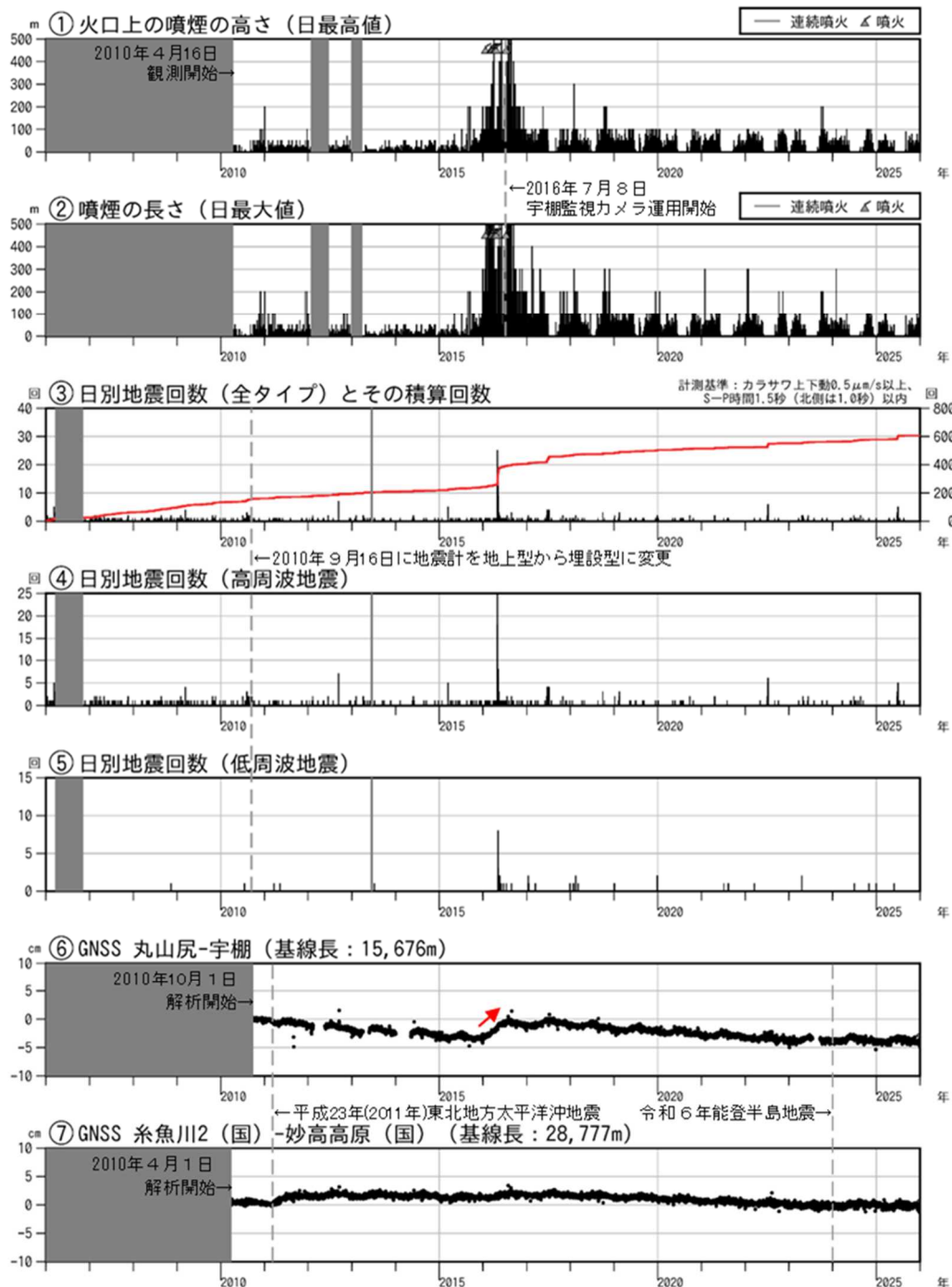


図6 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2025年12月31日）

（国）：国土地理院

①～⑦：灰色部分は観測前及び解析前のデータの無い期間または機器障害による欠測を示します。

①②：夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図9参照）のグラフも示しています。2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

④⑤：地震の主な種類（図10参照）ごとの回数を掲載しています。

⑥⑦：図11のGNSS基線⑥⑦に対応しています。空白部分は欠測を示します。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震、令和6年能登半島地震によるステップを補正しています。

・地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

・⑥のGNSS基線では、2016年1月頃から夏頃にかけて伸び（赤矢印）の変化がみられました。また、2016年5月頃には火山性地震が増加し、低周波地震も発生しました。

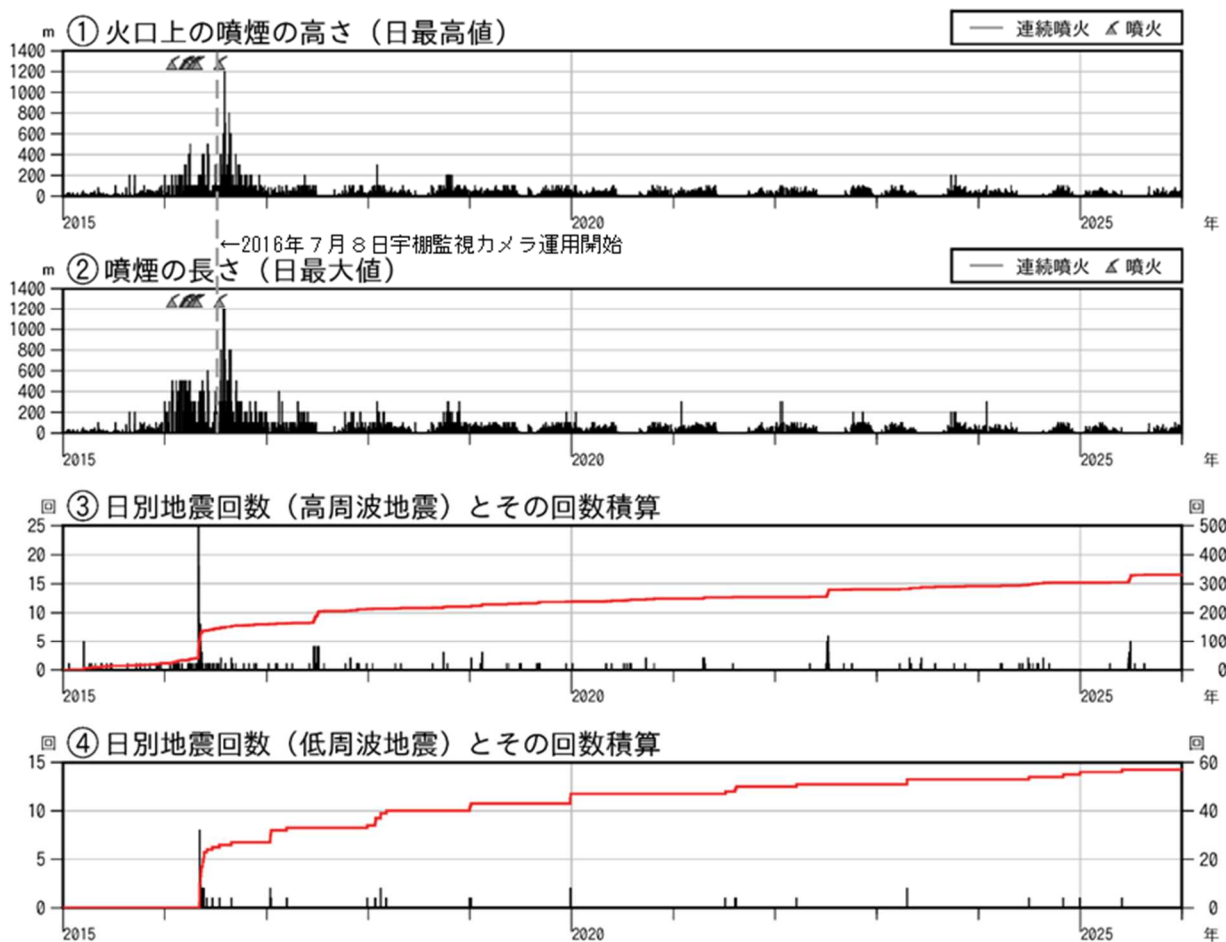


図 7 新潟焼山 火山活動経過図（短期）（2015 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）

①②：夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図 9 参照）のグラフも示しています。2016 年 7 月 8 日に宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016 年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

③④：地震の主な種類（図 10 参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・ 山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 100m 以下で推移し、噴煙活動は低調に経過しました。
- ・ 新潟焼山周辺の地震活動は低調に経過しました。

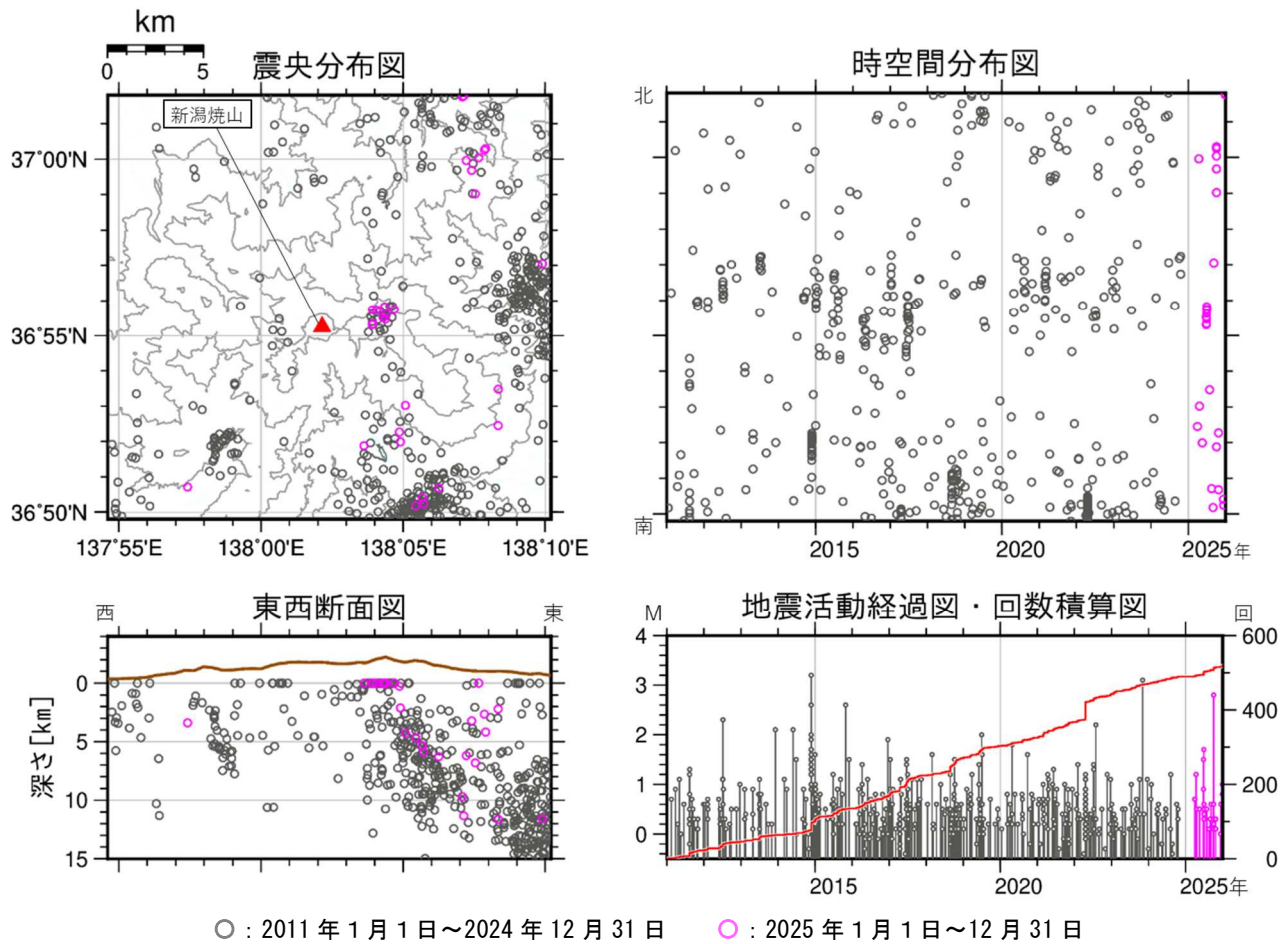


図8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日)
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年 9 月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しております。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・新潟焼山周辺を震源とする地震活動は低調に経過しました。

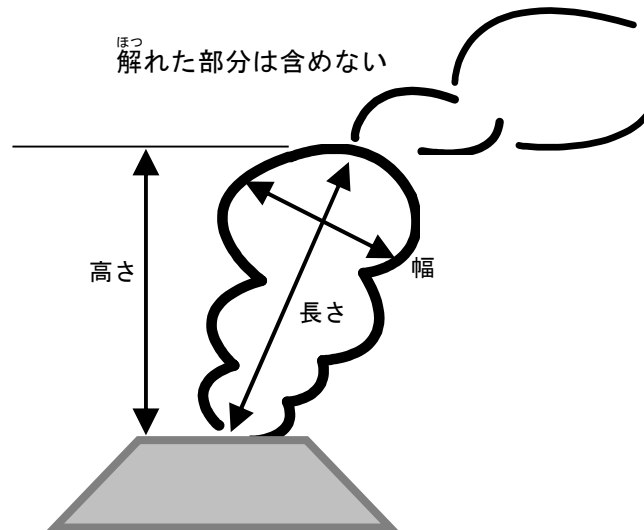


図 9 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

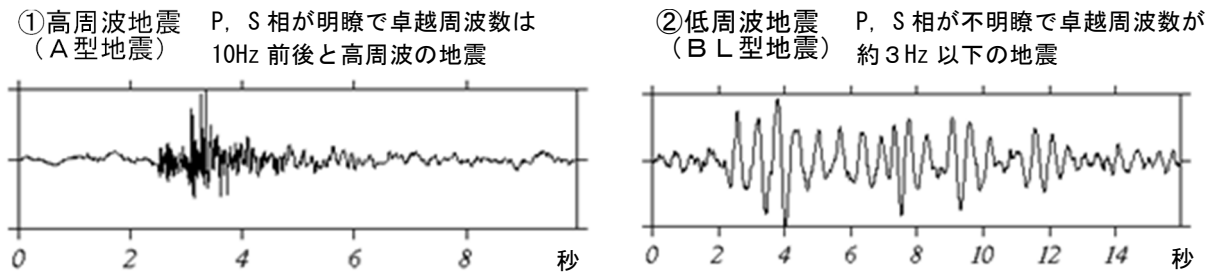


図 10 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

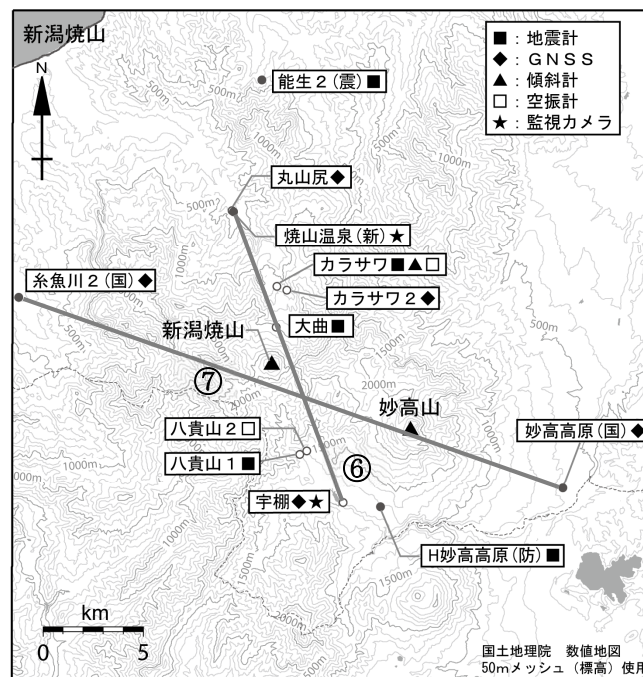


図 11 新潟焼山 観測点配置図

GNSS 基線⑥⑦は図 6 の⑥⑦に対応しています。

表 1 新潟焼山 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)	(m)		
地震計	カラサワ	36°57.35′	138°02.29′	1147	-100	2010.9.16	
	大曲	36°56.12′	138°02.29′	1562	-1	2016.12.1	広帯域地震計
	八貴山1	36°52.82′	138°03.20′	1276	0	2018.3.1	
傾斜計	カラサワ	36°57.35′	138°02.29′	1147	-100	2011.4.1	
空振計	カラサワ	36°57.35′	138°02.29′	1147	9	2010.9.16	
	八貴山2	36°52.84′	138°03.24′	1263	7	2018.3.1	
GNSS	丸山尻	36°59.45′	138°00.81′	486	4	2010.10.1	
	宇棚	36°51.53′	138°04.54′	1229	17	2010.10.1	
	カラサワ2	36°57.23′	138°02.62′	1157	6	2018.3.1	
監視カメラ	宇棚	36°51.53′	138°04.54′	1229	17	2016.7.8	臨時観測点